

タイトル:YMG

リード:Yosoku henkan(予測変換)Morusu singou(モールス信号)Gyaku Honyaku(逆翻訳)

チーム名:YoMoGi

メンバー名:ももすけ、れもん、Kurage man、Hirabayashi

本名: 石田桃花、碓氷愛結、熊野真菜、松井緑

解説

予測変換には今までよく使ってきた単語が表示される。打ち込んだ単語の後には、よく続けて利用する単語、あるいは機械が次に続く単語を予測し表示する。

自分が画面上で喋る上での癖や、機械が予測した単語が入り混じることで、普段自分が生み出すことのない文が生成される。

一見理解不能な文字列に見えても、そこには自己が潜んでいる。

そして予測変換による文を「英訳」「再翻訳」させることで自己がどれほど残るのか、個性とは何か。或いはAIはどのように解釈していくのかを探る。

また、直筆にする事でそのひとの予測変換に含まれる「個性」をより体感してもらいたいと考えた。

最後にモールス信号に翻訳する事でシニフィアンとしての変化を読み解く。

上記は全て「自分」だからこそ生まれる文であり、人により千差万別である。そしてこのサイクルは文字を打ち続ける限り随時更新されていく。

制作プロセス

ルール

- ・「原文」「英訳」「逆翻訳」で1セットとする
- ・1人10セット用意する
- ・共有ワードを用意する。以下共有ワード
「こんにちは」「了解」「ありがとう」「ムサビ」「じゃあ」「今」
- ・他の4種は自身のよく使う単語(口癖)を使用
- ・予測変換は10回まで(10回以内であれば途中で終わるのも可)
- ・付箋に手書きで「原文」「英訳」「逆翻訳」を書き模造紙に貼っていく
- ・付箋の色:原文→黄色、英訳→赤、逆翻訳→青

- ・モールス信号は、モールス信号の定義に沿って「原文」「逆翻訳」の二種類を翻訳
- ・全てを翻訳するのではなく気に入ったセットをいくつか抜粋して翻訳(プレゼン時に流す)

手順

- ①.ルールに則り原文を作成
- ②.①を英訳にかける
- ③.②を再翻訳(日本語)する
- ④.ルールに則り①.②.③を付箋に書き写し模造紙に貼る
- ⑤.①と③をモールス信号に変換する